

会 議 録

会 議 名		令和3年度 第2回 川西市社会教育委員の会(地域学校協働本部部会)		
事務局		教育推進部 社会教育課 (内線 3421)		
開催日時		令和3年6月7日(月)14時30分～16時00分		
開催場所		川西市役所 4階 庁議室(zoom による web 会議)		
出席者	委 員	野崎議長、金子委員、中川委員、岩永委員、井上委員		
	そ の 他			
	事 務 局	藪内教育推進部副部長(社会教育・図書館・公民館担当)、山戸教育推進部副部長(教育保育担当)、村山社会教育課長、高橋教育保育課長、大下主査、網永事務員		
傍聴の可否		可	傍聴者数	1名
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由				
会 議 次 第		別紙のとおり		
会 議 結 果		別紙のとおり		

審議経過

1. 開 会

2. 副部長あいさつ

3. 自己紹介

4. 報告事項

(1) 協議会等役員の選出について

事務局より「協議会等役員（案）」のとおり書面決議により承認された旨、報告がなされた。

(2) 地域学校協働本部について

事務局より 川西市の地域学校協働活動推進の流れ 地域学校協働活動推進の背景 地域学校協働活動の推進に向けての取組 川西市の地域学校協働本部についての説明がなされた。

以下委員の方より、現状の課題、進捗状況についてご意見、ご説明をいただく。

地域学校協働活動推進員より現状について説明

どのように地域学校協働本部を進めていったらいいか試行錯誤している。コミュニティ関係者には説明をしているが、他の地域の方には説明できていない状況である。

家庭教育関係者より意見

学校を支援するボランティアの人材バンクを作ったうえで地域学校協働本部を設置していかないと実働しないのではないかと。安全協力員、放課後子ども教室の代表者などの学校支援に協力してもらえる地域人材を登録するシステムを作った方がいいのではないかと。

学校教育関係者より今後の推進について

必要な地域人材をリストアップしており、家庭科の裁縫や、毛筆などの学習の支援を地域の人にお願したい。コミュニティ会長と協力をしながら、今後地域人材を広げていきたい。

議長より質問

「学校と地域の関わりはどの程度進んでいるのか」

学校教育関係者より回答

教育目標や重点目標、コロナ禍での学校行事の進め方など、地域の方へ説明をし、意見をもらいながら、進めている。

家庭教育関係者より質問・意見

ボランティアの方々に対して、この資料（川西市の地域学校協働活動についてのパワーポイント）で説明するのであれば、地域の人には何のためにこの活動が行われるのかなど、もっと見やすくわかりやすい資料の方がいいのではないかと。

事務局より回答

地域学校協働活動推進員が地域の方へ説明しやすいようパンフレットを用意しているが、十分活用はできていない。また、今後意見をいただきながら、より良いものを作成していきたいと考えている。コロナ禍で地域の方々への説明の機会がなくなっており、周知が遅れているのも原因の一つである。

議長より質問

「公民館が持っている人材バンクとの協働を図れないかという意見もあるが、現状学校と公民館との情報共有はどうか」

学校教育関係者より回答

公民館長に学校運営協議会の委員に委嘱をしたりしているが、より連携と情報共有が進むよう取り組んでいく。

5. 議 題

(1) 令和3年度年間研究テーマについて

事務局より2つの部会の共通テーマとして、「川西市社会教育の方向性 ～つながり、学びあうこと～」をテーマに検討を進める旨の説明があり、本部会はこれを了承した。

(2) 今後の川西市地域学校協働本部の推進について

令和3年度から地域学校協働活動推進員、支援員を選出したが、地域学校協働活動の取組が進んでいない。地域学校協働本部を設置し、活動を進めていく上で、特に次の2点が課題としてあげられるため、どのように推進していくべきか委員の考えをお聞きしたい。

地域学校協働本部の周知について

地域学校協働本部をどのように地域に浸透させ根付かせていけばよいか。

学校運営協議会と地域学校協働本部の連携について

学校運営協議会では協議を行い、地域学校協働本部では協議した内容を実働するための組織であり、役割が異なるが、学校運営協議会の組織で実働まで行う為地域学校協働本部は必要ないのではないかという意見を地域の方からいただく事が多い。

これらの課題について協議した結果、委員から以下の意見があげられた。

の課題についての意見

- ・地区ごとに目指す像を決めるなどした方が、意見がまとまっていいのではないかと。

- ・成果の出やすいものから取り組んでいった方がいい。成果が見えないと何をしているのか分からない。
- ・取組の概念はわかるが、具体的な活動がイメージできない。
- ・地域学校協働本部という名前がどんなことをする組織なのかわかりにくい。名前を聞いても具体的なイメージが浮かばない。
- ・学校運営協議会と地域学校協働本部の名前が似ているため理解が進まないのではないか。「学校応援団」など分かりやすい名前をつければいいのかではないか。

の課題についての意見

- ・学校運営協議会の委員と地域学校協働本部の構成員が重なるため、組織の違いが分かりにくい。
- ・学校運営協議会の場で、地域学校協働本部で話し合わなければいけない内容が協議されており、線引きができていないから、あえて地域学校協働本部を作る必要はないのではないかと。なる。
- ・小学校とコミュニティでは関りが深いですが、中学校とコミュニティには少し距離があるため、連携がうまくいかない。
- ・新しい組織を作っているというアピールをした方がいいのではないか。
- ・福祉委員などのコミュニティの中の役は地域から選出され、PTA からは出さないようにしているため、地域の方から、保護者の協力がなく、なぜ地域コミュニティばかりが活動をしないといけいないのかという声もある。
- ・学校として地域に何が貢献できるのかも協議する必要がある。
- ・保護者に PTA ではなく、地域学校協働本部に参加してもらおうという事も良いのではないか。
- ・学校は地域学校協働本部へこのような人材がほしいや、地域は地域のイベントがあるから子どもたちに手伝ってほしいなど、両方の要望を聞くことができれば、うまく整備できるのではないか。

これらの意見を参考に、地域学校協働本部の推進方法について見直していく。
次回も川西市地域学校協働本部の推進について協議を行う。

6. その他

事務局から、次回、第3回社会教育委員の会（地域学校協働本部部会）兼 地域学校協働本部運営会議は令和3年7月19日 15:30～から開催するとの連絡がありこれを了承した。

7. 閉会